

第3回 日本医療安全推進学会 学術総会

地域とともに推進する医療安全
～「地域での医療の標準化と連携」「薬剤・医療器材の安全な管理」～

会期

2026年9月12日(土)～13日(日)

会場

東京大学本郷キャンパス

/オンデマンド配信 2026年10月1日(木)～31日(土)

共同総会長

宇治原 誠

(独立行政法人国立病院機構横浜医療センター院長)

栗原 慎太郎

(長崎大学病院医療安全管理部教授)

長田 恵子

(東京医療保健大学副学長、立川看護学部長)

(対象者) 医療安全の推進に関心のある方。

医科医療安全、歯科医療安全、医薬品安全、医療機器安全、看護安全、リスクマネジメント、品質管理、
ヒューマンファクターと安全工学、リスクコミュニケーション、臨床コーチング、法行政学、医療経済学、医療経営学、
情報科学、行動科学、認知科学、疫学・統計、心理学、行動学研究者、病院経営者、病院長、医療行政担当者、
総括医療安全管理者、医科医療安全管理者、歯科医療安全管理者、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、病理医、臨床医、
薬剤師、保健師、看護師、訪問看護師などの在宅医療関係者、ケアマネージャー、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、
臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、院内法務担当者、弁護士、研修医、学生、医療産業従事者、その他医療職の方

連絡先

第3回日本医療安全推進学会学術総会
〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
東京科学大学大学院 医療安全管理学分野
(Email) 3rdjsmsp@mspo.org

JSMSP
Japan Society of Medical Safety Promotion

目次

ご案内	1
ごあいさつ	4
会場のご案内	6
学会の趣旨・お知らせ（次年度総会）	7
日程表	8
報道関係の方へ	11
交通のご案内	12
飲食について	13
座長・演者へのお知らせとお願い	14
プログラム 9月12日（土）	15
プログラム 9月13日（日）	22
学会認定の「臨床医学安全推進者」資格制度について	32
学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度について	33
学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度について	34
学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度について	35
機関誌「医療安全推進」について	37

(オンデマンド配信期間)

期間中は繰り返し視聴可能です。

2026 年 10 月 1 日（木）～ 2026 年 10 月 31 日（土）

(視聴方法)

- ・オンデマンド配信の視聴方法等は、2026 年 10 月 1 日にメールにて参加者へお届けします。
- ・オンデマンド配信は、インターネットに接続可能な機器でご視聴頂けます。

※当日のトラブルや講演者の事情により、一部ご視聴いただけない場合がございます。予めご了承ください。

(必要な機材)

- ・インターネットに接続して、音声を流すことができる PC・スマートフォン等の電子機器。
- ・PDF ファイルの閲覧ソフト（例:Acrobat Reader、無料版あり）
- ・ブラウザの動作確認は Google Chrome、Microsoft Edge にて行っております。

(電子版抄録集の URL の通知)

参加費支払い済みの方へ電子メールにて事前にお知らせします。

(参加証)

開催 1 週間前頃に電子版参加証を電子メールにてお送りします。
来場の際、各会場入り口では参加証ないし参加費領収書をご提示ください。
会場受付にてネームホルダーをお渡しします。

(領収書)

電子版領収書を電子メールにてお送りします。
PayPal による支払の場合、支払完了時に PayPal より自動送付されるものをお使いください。

(印字版抄録集の配布)

購入希望者に会場でお渡しします。
会期中に会場に来場されない方へは、郵送にてお送りしますので、
宛先の住所とともに事務局へお知らせください。
印字版抄録集の購入をご希望の場合は購読料(2000 円)をお支払ください。

参加登録方法

1. 参加登録期間:

早期参加登録: 2026年8月13日(木)まで

通常参加登録: 2026年8月14日(金)以降

※下記 URL より登録をお願いいたします。

<https://mspo.org/jsmsp/3rdjsmsp/register/index.html>

2. 参加費 (通常参加登録)

通常参加登録 (2026/8/14~9/13)	会員(医師)	会員(医師以外)	非会員(医師)	非会員(医師以外)
会場参加費	12,000円	9,000円	16,000円	13,000円
印字版抄録集	+2000円	+2000円	+2000円	+2000円
懇親会	+5000円	+5000円	+5000円	+5000円
オンデマンドのみ	17,000円	14,000円	21,000円	18,000円

- ・ 参加証を発行します。
- ・ PayPal による支払の場合、領収書は支払完了時に PayPal より自動送付されるものをお使いください。
- ・ 参加費には電子版抄録集を含みます。
- ・ MSPO 国際評議員は内規に則り参加費 10%割引となります。
- ・ 学部生の参加費は 1000 円です。学生証をご提示ください。

3. 参加費振込:

銀行振込の際、控えや明細等の記録をメール添付にてお届けください。

2026年9月10日以降は会場でのお支払をお願いいたします。

(振込先口座)

銀行名: みずほ銀行 (銀行コード 0001)

支店名: 本郷支店 (支店コード 075)

口座番号: 普通 4203420

口座名義: JSMP 総会 (ジェイエスエムエスピーソウカイ)

4. カード決済 (PayPal):

PayPal を利用したカード決済方法となります。アカウントは不要です。

下記 URL よりサイト下方よりお支払をお願いいたします。

<https://mspo.org/jsmsp/3rdjsmsp/register/index.html>

※支払項目をご選択の上、お支払ください。

※誤った項目を選択し、返金をご希望の場合は支払月末迄に事務局へご連絡ください。

第3回 日本医療安全推進学会学術総会

会期： 2026年9月12日(土)～13日(日)
場所： 東京大学本郷キャンパス

- 【共同総会長】 宇治原 誠 (独立行政法人国立病院機構横浜医療センター院長)
栗原 慎太郎 (長崎大学病院医療安全管理部教授)
長田 恵子 (東京医療保健大学副学長、立川看護学部長)
- 【顧問】 四柳 宏 (国立健康危機管理研究機構理事 (研究連携推進担当))
- 【副会長】 井口 新一 (医仁会武田総合病院臨床工学科係長、京都府臨床工学技士会副会長)
- 【補佐】 服部 昌和 (福井厚生病院院長、外科)
- 【組織委員長】 高橋 さゆり (東京大学医科学研究所附属病院医療安全管理部長)
- 【広報委員長】 永山 正雄 (国際医療福祉大学医学部・成田病院脳神経内科、医療安全管理部、教授)
- 【広報副委員長】 郷間 巖 (堺市立総合医療センター呼吸器内科部長)
鈴木 高弘 (横浜薬科大学薬学部准教授)
- 【プログラム委員長】 高山 和郎 (東京大学医学部附属病院薬剤部薬剤主任)
- 【プログラム副委員長】 檜山 明子 (札幌市立大学看護学部教授)
- 【実行委員長】 飛田 結実 (一般社団法人国際医療安全推進機構)

プログラム委員会:学会理事

組織委員会:特別会員、代議員、その他

主催
日本医療安全推進学会

後援

【官公庁】文部科学省

【学会】一般社団法人国際医療安全推進機構、国際医療リスクマネジメント学会、医療安全心理・行動学会、
公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本病院薬剤師会、
公益社団法人日本歯科衛生士会、公益社団法人日本臨床工学技士会、
一般社団法人日本脳神経外科学会、一般社団法人日本病理学会、一般社団法人日本衛生学会、公益社団法人日本小児科学会、公益財団法人日本眼科学会、
一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、一般社団法人日本泌尿器科学会、日本交通医学会、一般社団法人日本アレルギー学会、
公益社団法人日本麻酔科学会、一般社団法人日本農村医学会、一般社団法人日本糖尿病学会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、
一般社団法人日本呼吸器学会、一般社団法人日本腎臓学会、公益社団法人日本生体医工学学会、一般社団法人日本形成外科学会、
一般社団法人日本人工臓器学会、特定非営利活動法人 日本医療マネジメント学会

【専門職団体】一般社団法人秋田県医師会、公益社団法人東京都医師会、公益社団法人千葉県医師会、公益社団法人 神奈川県医師会、
公益社団法人鳥取県医師会、一般社団法人徳島県医師会、
公益社団法人岩手県看護協会、公益社団法人宮城県看護協会、茨城県看護協会、栃木県看護協会、埼玉県看護協会、千葉県看護協会、神奈川県看護協会、
一般社団法人千葉県病院薬剤師会、公益社団法人東京都薬剤師会、公益社団法人神奈川県薬剤師会、公益社団法人神奈川県病院薬剤師会、
一般社団法人 東京都臨床工学技士会、一般社団法人 奈良県臨床工学技士会

宇治原 誠

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター 院長



第3回日本医療安全推進学会学術総会において、共同総会長代表を務めさせていただくこととなりました。

本学術総会では、「地域とともに推進する医療安全」をテーマに掲げ、具体的な改善策について活発な議論を行いたいと考えております。加えて、医療安全に関わる新技術の導入、多職種連携、医療の質の向上、感染管理、労働環境の整備、職員教育、医療 DX の推進、病院運営管理など、幅広い課題についても議論を深めてまいります。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

栗原 慎太郎

長崎大学病院 安全管理部教授



AI の時代はすでに始まっています。医療とくに医療安全の分野では AI が席卷する未来も安易に予想できません。

しかし、AI は現在の体制ではデータの取得に制限があり、人間が持つ直感や類推、空気を読む力を持つまでに時間を要すると考えています。つまり医療安全の根幹となるところにはまだまだ信頼に足る機能を備えるまで時間がかかると思われます。

具体的な対策、誤認防止、容量の適正化などそれぞれの対策の達成には、機械特に AI が活用されるようになると考えられるため、利用方法について検証する必要がありますが、よりアナログな部分についてはこれまで以上に人の技量が試される時代が来ると予想しています。いずれにしても、現在が AI の医療導入過渡期にあることは間違いないですが、コストの制限もあり、段階的にしか導入されず、検証を重ねていくしかありません。その間も我々医療安全に従事するものは、仕事を休むわけにはいかず、これまでの経験や知識に基づいて実行していくしか方法がありません。

これまでも科学の発展に伴って、医療の環境は大きく変わりました。AI はそのなかでも大きな影響を及ぼす可能性のある変化ですが、根源的な部分で医療が人と人との関係性に依存している今の環境では、革命的な変化はすぐには期待できません。AI に任せていたけど医療事故を起こしたといっても AI の責任にはできず、結局医療者が解決するしか患者側も納得しないでしょう。しばらくは最終的には人である時代が続くと考えられる以上、医療安全がこれまでに培ってきた知識や技術が意味のないものになるどころか、より必要な知識として、医療者が医療に従事するより早い段階から身に着けておくべき技量となると考えています。

科学が、あるいは機械が医療の知識や技術を補完するように発展する未来は容易に想像できます。しかし人と人との関係性を強固にする未来は全く見えません。我々医療安全従事者が医療へ果たす役割はますます重要になる時代が来ると考えています。

長田 恵子

東京医療保健大学副学長、立川看護学部長



この度、第3回日本医療安全推進学会学術総会の共同総会長を務めさせていただきます、長田恵子です。今回の学術総会テーマは「地域と共に推進する医療安全」です。

地域医療構想においては、医療機関同士の連携、医療機関と福祉施設との連携、病院における医療と在宅医療との連携等、それぞれの主体間の“連携における質”が担保されることの重要さは申すまでもないことです。そしてそれは、患者の真の意思が尊重され、医療の安全が確実であることにより、患者が安心して住み慣れた場所で暮らすことができるものと思います。本学術総会では、連携における安全を考え、個々の立場での役割発揮の在り方を皆様とともに考えてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

会場のご案内

住所 東京都文京区本郷 7-3-1

(A 会場)	医学部 1 号館 3 階大講堂
(B 会場)	医学部 1 号館 1 階小講堂
(E 会場)	医学部 1 号館 4 階ロビー (ポスター展示)
(受付・企業展示)	医学部 1 号館 4 階ロビー
(控室・打合せ室)	医学部 2 号館 1 階小講堂

(A 会場)	医学部教育研究棟 13 階第 6 セミナー室
(B 会場)	医学部教育研究棟 13 階第 7 セミナー室
(C 会場)	医学部教育研究棟 13 階第 8 セミナー室
(D 会場)	医学部教育研究棟 13 階第 5 セミナー室
(E 会場)	医学部教育研究棟 13 階リフレッシュコーナー (ポスター展示)
(受付・企業展示)	医学部教育研究棟 13 階エレベーターホール
(控室・打合せ室)	医学部教育研究棟 2 階第 1～3 セミナー室



学会の趣旨

本学会は医療安全推進の向上のための学術団体で、一般社団法人国際医療安全推進機構が主催します。

対象分野は医療事故・ミス、大規模災害およびパンデミック感染症における医療の安全を推進し、より良い医療安全文化を有する医療を構築します。医師、薬剤師、看護師、歯科医師、臨床工学技士、医療事務担当者、学生など広く様々な方々と交流を促進します。

一般社団法人の目的である社会に開かれた民主的な団体運営を行うために、理事長役職定年制(2年)および理事役職定年制(6年周期)を設置して理事会構成員を絶えず活性化することが不可欠です。これらによって日本社会の広範囲から様々な理事長と理事を登用し、社会の新しいニーズに絶えず対応できる新しい人材で学会運営を可能にします。

第4回 日本医療安全推進学会学術総会のお知らせ

会期: 2027年9月11日(土)～12日(日) 2日間
場所: 東京大学医学部本郷キャンパス

共同総会長: 服部昌和 (福井厚生病院院長、外科)
手塚則明 (東北医科薬科大学医療安全部教授)
植田信策 (日本赤十字社医療事業推進本部参事監)
副会長: 藤井 耕 (京都民医連あすかい病院・医療安全管理室。京都府臨床工学技士会前会長)
組織委員長: 内田まやこ (九州大学病院薬剤部 教授・薬剤部長)
プログラム委員長: 井上都之 (岩手県立大学看護学部准教授)
プログラム副委員長: 木村由紀 (長崎大学病院医療相談室、看護師長)
実行委員長: 飛田結実 (国際医療安全推進機構)

ホームページ: <https://mspo.org/jsmsp/4thjsmsp/>

日程表 2026年9月12日(土)

時刻	A会場	B会場	受付・企業展示
	医学部1号館3階大講堂	医学部1号館1階小講堂	医学部1号館4階ロビー
8:00			受付 8:00～
8:30			
9:00	開会式 PL01 理事長講演 医療安全管理学のバラダイムシフト 演者 工藤篤		ポスター掲示 ・ 企業展示 9:00-17:30
9:30	EL01 教育講演 大学病院における医療事故再発防止の ための多職種連携チーム医療 演者 世川修 座長 石井康介	SN03 分科会シンポジウム 【看護分科会】地域医療における 医療安全推進の現状と課題 演者 大原志歩、福元大介、志垣都 座長 志垣都	
10:00	EL02 教育講演 医療機器安全管理者へ伝えたいこと ～医療機器安全の推進～ 演者 相田伸二 座長 藤巻美子		
10:30			
11:00	PN01 パネル討論会 医療物流（サブライ）における危機管理 座長 久保田英雄 協賛 ソルベンタム合同会社	SN04 分科会シンポジウム 【麻酔分科会】その一言、その確認で 事故は防げた 演者 柴田正幸、虻川有香子、松本裕則 座長 虻川有香子	
11:30			
12:00	お昼休憩	お昼休憩	
12:30			
13:00	SN01 分科会シンポジウム 日本の医事紛争の実態と処理過程 演者 大滝恭弘、金子慶尚、加藤大裕 座長 大滝恭弘	NP01 一般演題 看護における安全課題 4題 座長 井上都之、川村晃右	
13:30			
14:00		NP02 一般演題 看護・周術期の安全課題 4題 座長 長田恵子、高見沢愛弓	
14:30	PN02 パネル討論会 ネクストパンデミックに備えて 演者 四柳宏、栗原慎太郎、高山和郎 座長 四柳宏	SN05 シンポジウム 集めるから、活かすへ 演者 平松真理子 座長 山本豊 協賛 テルモ株式会社	
15:00			
15:30	EL03 教育講演 演者 四柳宏		
16:00	EL04 教育講演 針刺し・血液体液曝露の予防と対応 演者 堤武也 座長 植竹宏之	SN06 分科会シンポジウム 【安全チーム分科会】病診連携における 引き継ぎの現状と課題 演者 井上都之、相田伸二、近藤匡慶、 岩尾誠也、庵原美香、平井理心 座長 中川麗	
16:30			
17:00	SN02 分科会シンポジウム 【臨床工学分科会】臨床工学における 医療安全推進へのストラテジー 演者 山下繁、小山和彦、小野寺貴志、 善村夏代、北野達也 座長 井口新一、山口智史	SN07 分科会シンポジウム 【代議員交流会】多職種で考える医療安全 演者 石井桂輔、伊東俊雅、今中翔一、鈴木高弘、 高木純一郎、納谷佳男、藤井耕 座長 鈴木高弘	
17:30			
18:00	一日目閉会		
18:30	18:30-20:30 懇親会		

日程表 2026 年 9 月 13 日（日）

時刻	A会場	B会場	C会場
	教育研究棟13階第6セミナー室	教育研究棟13階第7セミナー室	教育研究棟13階第8セミナー室
9:00			
9:30	EL05 教育講演 医療安全とAI 演者 納谷幸男 座長 中村京太	EL07 教育講演 胆膵内視鏡（ERCP関連手技）における 医療安全 演者 林香月 座長 郷間 巖	SN12 分科会シンポジウム 【医療安全分科会】介護施設等の安全に どう貢献していくのか 演者 小澤和博、新村美佐香、齋藤謙治 座長 大原志歩
10:00	SN08 分科会シンポジウム 医療安全におけるサイバーセキュリティ と医療AIの安全保障 演者 大田原正幸、江原悠介、金子誠暁 座長 田仲浩平	SN10 分科会シンポジウム 【看護分科会】地域とともに進める 医療安全 演者 谷仲圭子、高見沢愛弓、 藤井由美恵、大西真裕、木村由紀 座長 澁澤盛子	
10:30			
11:00			
11:30	SP01 特別講演 平時と有事をつなぐDX 演者 畑中洋亮 座長 大友康裕		SN13 分科会シンポジウム 【多職種連携のための教育分科会】 多職種連携のための教育分科会の役割 演者 迫田典子、中山晴雄、世川修 座長 世川修
12:00	お昼休憩		
12:30			
13:00	SN09 分科会シンポジウム 【若手人材育成委員会】医療安全と 人材育成の両面からみたPrivilege 演者 落合秀人、世川修、三重野雅裕、 高山和郎、田仲浩平、藤田真幸 座長 落合秀人	SN11 分科会シンポジウム 【看護分科会】看護学実習における 医療安全教育 演者 長田恵子、井上都之、迫田典子、 大西真裕、檜山明子、川村晃右、甲州優 座長 井上都之	SS01 特別企画 多職種で行う医薬品の安全な使用のあり方 演者 黒田誠一郎、富田隆、雨宮貴洋、 大原志歩、堀田まゆみ
13:30			
14:00			
14:30			
15:00			SS02 特別企画 多職種で行う医療機器の安全な使用のあり方 演者 渡邊雅俊、高見沢愛弓、ほか
15:30	EL06 教育講演 医療機器の進化と医療従事者の退化 演者 田仲浩平 座長 増田雄一	EL08 教育講演 看護学実習における医療安全の実装 演者 井上都之 座長 遠藤純男	
16:00	PL02 総会長講演 演者 栗原慎太郎 座長 手塚則明	SP02 特別講演 医療安全対策の動向 演者 荒木崇宏 座長 檜山明子	
16:30			
17:00	閉会式 次期会長挨拶		

日程表 2026 年 9 月 13 日 (日)

時刻	D会場	E会場
	教育研究棟13階第5セミナー室	教育研究棟13階リフレッシュコーナー
9:00		
9:30	EL09 教育講演 注射薬の調製・投与における安全管理再考 演者 黒田誠一郎 座長 荒井有美	
10:00		
10:30		
11:00	SP03 ハンズオンセミナー 抗がん剤曝露防止ハンズオンセミナー —抗がん剤の安全管理とデバイスの提案— 座長 伊東俊雅	ポスター掲示・企業展示 9:30-17:00 (掲示は11:30まで)
11:30		
12:00		
12:30	お昼休憩	
13:00		
13:30		PP01 一般演題 (ポスター) ポスター発表 3題
14:00	NP03 一般演題 医療機器の安全課題 4題 座長 緒方賢司、ほか	
14:30	NP04 一般演題 医薬品・臨床技術の安全課題 4題 座長 福元大介、ほか	
15:00		
15:30	NP05 一般演題 医療安全担当部門における安全課題 3題 座長 雨宮貴洋、ほか	ポスター掲示・企業展示 (撤去 16:00)
16:00		
16:30		
17:00		

報道関係の方へ

1. 報道機関、出版社の取材記者の方へ

- ・ 会場参加のみ可能です。オンデマンドのみの参加はできません。予めご了承ください。
- ・ 参加費は無料です。参加をご希望の場合はメールにてお問い合わせください。
当日は会場受付にお越しになり、名刺をお渡しください。 【電子メール】 3rdjsmsp@mspo.org
- ・ 抄録集(印字版)をご希望の際には、1部2,000円にて購入いただけます。
- ・ 本学術総会の開催について貴社を通じて広く社会へ広報していただけますと幸いです。

展示企業の方へ

1. 展示場所

- ・ 会場運営上の都合により、展示場所は1日目と2日目で異なります。
- ・ 1日目: 東京大学医学部1号館4階ロビー、2日目: 東京大学医学部教育研究棟13階リフレッシュコーナーです。各企業の展示は学会から指定された場所を使用してください。配置表を別送します。

2. 展示時間

- ・ 9月12日(土) 9:00 ～ 18:00
- ・ 9月13日(日) 9:00 ～ 17:00

3. 資材の搬入

- ・ 9月11日(金) 18:00以降もしくは9月12日(土)8:00以降に搬入及び設置をお願いいたします。

4. タクシーや自家用車での搬入・搬出の方法

- ・ 会場入り口前に車を停めて搬入・搬出が可能です。
- ・ 東京大学構内へは竜岡門からお入りください。駐車のご負担いただきますようお願いいたします。
(駐車料金: 30分まで無料、以降 300円/20分、24時間ごとの最大料金 3,000円)

5. 貸出物

- ・ 展示ブース1小間は、幅160cm×奥行150cmです。テーブル1台、椅子2脚を貸出可能です。
- ・ 電源をご利用になる場合は、10m程度の延長コードおよび電源タップをご持参ください。
- ・ バックパネル等、上記以外の展示に必要な備品につきましては、各社にてご用意ください。

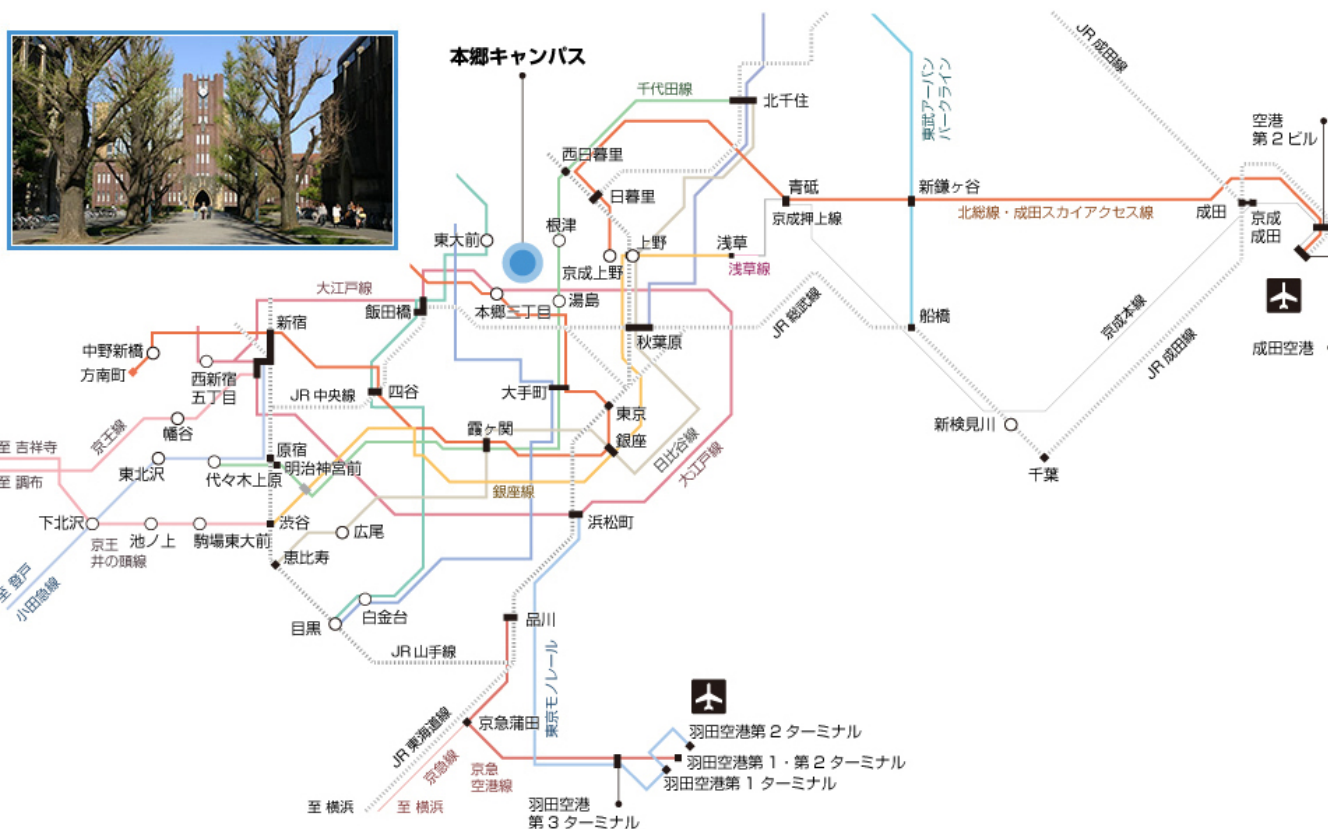
6. 昼食

- ・ 徒歩5分の安田講堂前広場の地下に学食と生協があります。昼食代は各社にてご負担ください。

7. インターネット

- ・ 会場ではゲストWi-Fiをお使いいただけます。詳細は下記のリンクよりご確認ください。
- ・ <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/dics/ja/wlan.html>

交通のご案内



最寄り駅からのアクセス

- 本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）より徒歩 8 分
- 本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）より徒歩 6 分
- 湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線）より徒歩 8 分
- 東大前駅（地下鉄南北線）より徒歩 1 分
- 春日駅（地下鉄三田線）より徒歩 10 分

懇親会

2026 年 9 月 12 日（土） 18 : 30 ～ 20 : 30

会費：税込 5 千円/人

参加申込時に参加のご希望をお届けください。

飲食について

会場内の飲食・喫煙は一切禁止されています。

(昼食)

安田講堂前広場の地下に学生食堂と生協があります。

東大正門～本郷三丁目交差点付近に多数の飲食店があります。

後樂園ドームシティには多数の飲食店がございます。(タクシー5分、徒歩15分)

その他飲食店情報は下記をご参照ください。

<https://mspo.org/jsmsp/3rdjsmsp/restaurant/index.html>



令和5(2023)年4月版

座長・演者へのお知らせとお願い

1. 座長の方へ

- ・ ご担当セッションの開始 10 分前までに各会場へご入場ください。
- ・ 進行は時間厳守でお願いいたします。アナウンス係の準備はございませんので、時間になりましたら開始してください。

2. 特別講演および教育講演の発表の方法

- ・ 各セッション開始の 10 分前までに、次演者席（各会場前方）にお越しください。
- ・ 座長による紹介のため、ご略歴等の資料を会期 1 週間前を目安に事務局へお届けください。

3. シンポジウムの発表の方法

- ・ 講演は 1 人の発表者につき原則 15 分です。座長からの指示がある場合は別途ご対応ください。
- ・ 各セッション開始の 10 分前までに、次演者席（各会場前方）にお越しください。

4. パネル討論会の発表の方法

- ・ 講演は 1 人の発表者につき原則 15 分です。座長からの指示がある場合は別途ご対応ください。
- ・ 各セッション開始の 10 分前までに、次演者席（各会場前方）にお越しください。

5. 一般演題の発表の方法

- ・ 一般演題(口演)は 1 題 10 分（質疑応答 2 分含む）です。
- ・ 各セッション開始の 10 分前までに、次演者席（各会場前方）にお越しください。

6. 発表形式について

- ・ パワーポイント資料の比率は任意ですが、4:3 を推奨します。
- ・ ポスターのサイズは A0 サイズです。
- ・ 円滑な運営のため、発表データは前もって事務局までご提出ください。
(提出先: 3rdjsmsp@mspo.org、提出期限: 2026 年 9 月 6 日(日))
- ・ 発表資料に変更がある場合は、パワーポイントのデータを保管した USB メモリをご持参ください。
- ・ PC (Windows10 ないし Windows11) 一台と、リモコン操作器具を各会場に用意します。
- ・ マッキントッシュ PC をご持参の場合は、録画準備が必要のため会場担当へお声がけください。また、モニター(HDMI)との接続ケーブルをご持参ください。

7. 打合せ室・控室について

- ・ 1 日目は医学部 2 号館 1 階小講堂を使用できます。
- ・ 2 日目は医学部教育研究棟 2 階第 1 セミナー室、第 2 セミナー室、第 3 セミナー室を使用できます。

8. 学会賞

医療安全文化促進賞(優秀賞)

- … 一般演題から若干数を選考・授与します。選考は総会長・プログラム委員によります。
- 対象者へ学会機関誌「医療安全推進」に受賞論文としての寄稿を依頼します。

医療安全文化促進賞(功労賞)

- … 発表演題数に応じて授与します。

プログラム 9月12日(土)

(A会場) 2026年9月12日(土)

東京大学医学部1号館3階大講堂

開会式・学会概要説明

8:40-8:50

PL01: 理事長講演

8:50-9:10

テーマ: 医療安全管理学のパラダイムシフト

座長: 宇治原 誠 (独立行政法人国立病院機構横浜医療センター 院長)

演者: 工藤 篤 (東京科学大学病院 肝胆膵外科 医療安全管理学、
日本医療安全推進学会 理事長)

EL01: 教育講演

9:20-9:50

テーマ: 大学病院における医療事故再発防止のための多職種連携チーム医療

座長: 石井 庸介 (日本医科大学附属病院 副院長、医療安全管理部長、心臓血管外科大学院教授)

演者: 世川 修 (東京女子医科大学 医療安全・危機管理部、
東京女子医科大学病院 副院長 (医療安全管理責任者))

EL02: 教育講演

10:00-10:30

テーマ: 医療機器安全管理者へ伝えたいこと ～医療機器安全の推進～

座長: 藤巻 愛子 (東京科学大学病院 ME センター)

演者: 相田 伸二 (京都大学医学部附属病院 医療器材部)

PN01: パネル討論会

10:40-12:00

テーマ: 医療物流(サプライ)における危機管理

協賛: ソルベンタム合同会社

座長: 久保田 英雄 (東京科学大学病院 材料部部长 准教授)

(PN01-1) 安全な医療提供体制の基盤としての医療物流

久保田 英雄 (東京科学大学病院 材料部 部長・准教授)

(PN01 続き)

(PN01-2) 物流について SPD および納入業者両方の立場から
— 平時のネットワーク構築と有事のサプライチェーン対応 —

島田 正司 (小西医療器株式会社 常務取締役 ソリューション事業本部 本部長)

(PN01-3) 医療機器メーカーにおけるサプライチェーンレジリエンス向上への取り組み
— Lean Value Stream による危機管理と安定供給の実践 —

野沢 修介 (ソルベントム合同会社 メディカルソリューション事業部
ERP Business Cutover Site Lead, Japan)

SN01 : 分科会シンポジウム

13:00-14:20

テーマ: 日本の医事紛争の実態と処理過程 — データが示す構造と実務のリアル —

座長: 大滝 恭弘 (帝京大学板橋キャンパス 医療共通教育研究センター 教授)

(SN01-1) クローズドクレームデータからみた日本の医事紛争の構造

大滝 恭弘 (帝京大学板橋キャンパス 医療共通教育研究センター 教授)

(SN01-2) 医事紛争はどのように処理されているのか — 保険実務の立場から —

金子 慶尚 (損害保険ジャパン株式会社 課長代理)

(SN01-3) 医事紛争解決の判断軸 — 法実務の現場から —

加藤 大裕 (板橋総合法律事務所)

PN02 : パネル討論会

14:30-15:30

テーマ: ネクストパンデミックに備えて

座長: 四柳 宏 (国立健康危機管理研究機構 理事 (研究連携推進担当))

(PN02-1) 国における取り組み

四柳 宏 (国立健康危機管理研究機構 理事 (研究連携推進担当))

(PN02-2) 医療現場での取り組み ～パンデミックに備えての研修～

栗原 慎太郎 (長崎大学病院 医療安全管理部 教授)

(PN02-3) パンデミックに備える医療現場での情報マネジメント

高山 和郎 (東京大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤主任)

総合討論

EL03 : 教育講演

15:30-15:50

テーマ: パンデミック下の医療安全

座長: 永山 正雄 (国際医療福祉大学医学部・成田病院 脳神経内科/医療安全管理部 教授)

演者: 四柳 宏 (国立健康危機管理研究機構 理事 (研究連携推進担当))

EL04 : 教育講演

16:00-16:30

テーマ: 針刺し・血液体液曝露の予防と対応

座長: 植竹 宏之 (独立行政法人国立病院機構災害医療センター 臨床研究部長/本部特命調整役)

演者: 堤 武也 (東京大学医学部附属病院 感染制御部・感染症内科 教授)

SN02 : 分科会シンポジウム (臨床工学分科会)

16:40-18:00

テーマ: 臨床工学における医療安全推進へのストラテジー

座長: 井口 新一 (医仁会武田総合病院 臨床工学科 係長/京都府臨床工学技士会 副会長)

山口 智史 (NTT 東日本関東病院 医療安全管理室 医療安全管理者)

(SN02-1) 臨床工学における医療安全推進へのストラテジー

山下 繁 (日本赤十字社和歌山医療センター 医療技術部臨床工学技術科
/医療安全推進室 専任医療安全管理者)

(SN02-2) 重大事象の類型化を踏まえた臨床工学技士の医療安全推進へのストラテジー

小山 和彦 (京都岡本記念病院 臨床工学部 副部長/医療安全管理室 副室長)

(SN02-3) 臨床工学における医療安全推進へのストラテジー

小野寺 貴志 (医療法人五星会菊名記念病院 医療安全管理室 医療機器安全管理責任者)

(SN02-4) 「臨床工学における医療安全推進へのストラテジー」 看護師の立場から

善村 夏代 (NTT 東日本関東病院 看護部 副看護部長)

(SN02-5) 医療安全推進へのストラテジー-認定医学教育専門家の立場から-

北野 達也 (星城大学 経営学部 医療マネジメント分野/医療マネジメント研究室 教授)

1日目閉会

18:00

(B会場) 2026年9月12日(土)

東京大学医学部1号館1階小講堂

SN03: 分科会シンポジウム(看護分科会)

9:10-10:30

テーマ: 地域医療における医療安全推進の現状と課題
—相互評価および監査体制の発展と展望—

座長: 志垣 都 (福岡大学病院 看護部 看護師長)

(SN03-1) 地域中核病院における相互評価と連携会議の実際

大原 志歩 (社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院 TQM センター
医療安全管理室 副室長・看護師長)

(SN03-2) 国立病院機構が取り組む医療安全相互チェック

福元 大介 (独立行政法人国立病院機構相模原病院 医療安全管理課長)

(SN03-3) 特定機能病院間におけるピアレビューの現状と課題

志垣 都 (福岡大学病院 看護部 看護師長)

SN04: 分科会シンポジウム(麻酔分科会)

10:40-12:00

テーマ: その一言、その確認で事故は防げた —手術室から学ぶ医療安全の盲点

座長: 虻川 有香子 (東京慈恵会医科大学附属病院 麻酔科 教授)

(SN04-1) 手術センターにレジリエンスを実装する

— 周術期支援センター (PSC) からのアプローチ —

柴田 正幸 (日本赤十字社前橋赤十字病院 麻酔科 部長)

(SN04-1) 手術室から事故を防ぐための「一言」と「確認」の価値

虻川 有香子 (東京慈恵会医科大学附属病院 麻酔科 教授)

(SN04-1) インシデントの要因を可能な限りつぶす - 当院手術室の工夫

松本 裕則 (京都山城総合医療センター 麻酔科 診療部長・麻酔科部長)

NP01：一般演題

12:50-13:30

座長：井上 都之（岩手県立大学 看護学部 准教授）

川村 晃右（京都橘大学 看護学部 准教授）

(NP01-1) 食道亜全摘術患者の術前呼吸訓練における看護実践の課題
—医療安全確保に向けた標準化と情報連携—

迫田 典子（獨協医科大学 看護学部 教授）

(NP01-2) PCI 施行時における心理的支援がもたらす医療安全上の意義
—不意の体動による事故防止に向けた看護師の認識調査—

迫田 典子（獨協医科大学 看護学部 教授）

(NP01-3) 摂食嚥下スクリーニングプロトコル徹底による食事関連有害事象ゼロへの取り組み

佐々木 仁美（昭和医科大学藤が丘病院 看護部）

(NP01-4) 高気圧酸素療法における看護の安全確認手順の実態と課題
—Safety-I/Safety-II 統合の視点から—

佐々木 仁美（昭和医科大学藤が丘病院 看護部）

NP02：一般演題

13:40-14:20

座長：長田 恵子（東京医療保健大学 副学長／立川看護学部長）

高見沢 愛弓（独立行政法人国立病院機構東京医療センター 看護部長）

(NP02-1) 3b 以上の転倒報告増加を受けた対策実施とその効果

平 愛（名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 看護部）

(NP02-2) 抗がん剤誤投与事例を契機とした患者確認プロセス是正の取り組み

平 愛（名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 看護部）

(NP02-3) ヒヤリハット内容を用いた反復学習による看護補助者の報告行動の変化

田久保 愛（かわぐち心臓呼吸器病院 医療安全管理室）

(NP02-4) クラスタリングを用いた手術機器インシデントレポートの分析

木田 奈々美¹⁾，木田 博太²⁾，上野山 充²⁾

1) 滋慶医療科学大学 医療科学部臨床工学科

2) 大阪急性期・総合医療センター 臨床工学室

SN05: シンポジウム

14:30-15:30

テーマ: 集めるから、活かすへ — インシデントレポートが変える現場の未来

協賛: テルモ株式会社

座長: 山本 豊 (公益社団法人がん研究会 有明病院 院長補佐、医療安全管理部 部長、
ME センター 副センター長)

演者: 平松 真理子 (慶應義塾大学病院 医療安全管理部 副部長)

SN06: 分科会シンポジウム (安全チーム分科会)

15:40-16:50

テーマ: 病診連携における引き継ぎの現状と課題

座長: 中川 麗 (JR 札幌病院)

(SN06-1) 在宅または通院での看護的介入への移行における看護的評価と判断について

井上 都之 (岩手県立大学 看護学部 准教授)

(SN06-2) 呼吸器の自宅使用について—安心安全な在宅人工呼吸器療法に向けて—

相田 伸二 (京都大学医学部附属病院 医療器材部)

(SN06-3) 薬剤師は何を地域へつなぐべきか

—筋ジストロフィー患者の在宅移行における薬薬連携—

近藤 匡慶 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部)

(SN06-4) その退院は本当に安全か —在宅破綻を防ぐための5つの必須要件と管理目標—

岩尾 誠也 (宇佐高田医師会病院 理学療法士)

(SN06-5) 医療と福祉の制度整備の現状 —QOLを支える多職種連携実践の視点—

庵原 美香 (学校法人花園学園 花園大学 社会福祉学部社会福祉学科 講師)

(SN06-6) 退院支援における、患者、家族、医療者間に起こる 心理的コンフリクト

平井 理心 (筑波大学附属病院 医療安全管理部 心理士 GRM)

SN07: 分科会シンポジウム (代議員交流会)

17:00-18:00

テーマ: 多職種で考える医療安全

座長: 鈴木 高弘 (横浜薬科大学 薬学部 准教授)

(SN07-1) 「気づく・伝える・改善する」医療安全

—多職種で取り組む急変シミュレーション・TeamSTEPPS・PDCA—

石井 桂輔 (帝京大学医学部附属病院 外傷センター／安全管理部)

(SN07-2) 病院薬剤師による Total Medication Safety Management とは？

伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部長)

(SN07-3) 薬剤師の専門性を活かした医療安全の推進

今中 翔一 (帝京大学医学部附属病院 薬剤部 係長)

(SN07 続き)

(SN07-4) 患者の「飲む」を支える医療安全
—包装設計と多職種による服薬支援—

鈴木 高弘 (横浜薬科大学 薬学部 准教授)

(SN07-5) 歯科における医療安全

高木 純一郎 (石川県立中央病院)

(SN07-6) 小規模病院の院長からみた医療安全のあり方

納谷 佳男 (長浜市立湖北病院 病院長)

(SN07-7) 医療安全管理者はハラスメントにどう対応すべきか!?

藤井 耕 (京都民医連あすかい病院 医療安全管理室 室長)

(E 会場) 2026 年 9 月 12 日 (土)

東京大学医学部 1 号館 4 階ロビー

ポスター掲示・企業展示

9:00-17:30

※ポスターは 9 月 12 日 (土) 11:30 までに各自でご掲示ください。

※ポスター発表 (示説) は 9 月 13 日 (日) に E 会場 (医学部教育研究棟 13 階リフレッシュコーナー) で行います。

プログラム 9月13日(日)

(A 会場) 2026 年 9 月 13 日 (日)

東京大学医学部教育研究棟 13 階第 6 セミナー室

EL05 : 教育講演

9:10-9:40

テーマ: 医療安全と AI

座長: 中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 医療の質・安全管理部 診療教授)

演者: 納谷 幸男 (帝京大学ちば総合医療センター 安全管理部 安全管理部長)

SN08 : 分科会シンポジウム

10:00-11:20

テーマ: 医療安全におけるサイバーセキュリティと医療 AI の安全保障

座長: 田仲 浩平 (東京工科大学 片柳研究所 デジタルヘルスイノベーションセンター 教授)

(SN08-1) 医師×AI の臨床現場から見た医療 AI ガバナンス —規模を問わない運用への課題

大田原 正幸 (杏林大学 保健学部救急救命学科 准教授/Cursorvers 株式会社
/Health ISAC Japan)

(SN08-2) 国内医療サイバーセキュリティの現在地と今後の展望

江原 悠介 (Health ISAC Japan/PwC Japan)

(SN08-3) 医療を支える外部接続セキュリティ

—実装案: 厚労科研費による実態調査と PoC を通じて

金子 誠暁 (医療 AI プラットフォーム技術研究組合)

SP01 : 特別講演

11:30-12:00

テーマ: 平時と有事をつなぐ DX: 医療現場に資する新たな政府医療 DX 基盤と AI 活用

座長: 大友 康裕 (東京女子医科大学 救急救命センター 特任教授)

演者: 畑中 洋亮 (一般財団法人あなたの医療 代表理事/厚生労働省医政局参与)

SN09 : 分科会シンポジウム (若手人材育成委員会)

13:00-15:00

テーマ: 医療安全と人材育成の両面からみた Privilege

座長: 落合 秀人 (浜松医療センター 副院長/医療安全管理部長/消化器外科部長)

(SN09-1) Introduction—医療における Privilege の意味

落合 秀人 (浜松医療センター 副院長/医療安全管理部長/消化器外科部長)

(SN09-2) 小児内視鏡外科手術における技術認定制度の現状と問題点

世川 修 (東京女子医科大学小児外科、
日本内視鏡外科学会技術審査委員会 (小児外科領域) 前委員長)

(SN09-3) 「看護師の特定行為における安全管理と教育」
～特定行為研修修了者による PICC の挿入体制の整備～

三重野 雅裕 (医療法人社団伊豆七海会 熱海所記念病院 兼 TMG 本部横浜支部 診療看護師 (NP)
/認定看護管理者)

(SN09-4) 薬剤師の専門性と認定制度

高山 和郎 (東京大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤主任)

(SN09-5) 臨床工学技士の Privilege 体系と CBME・EPA

—経験件数主義を超え、教育 DX が拓く医療安全と次世代人材育成—

田仲 浩平 (東京工科大学片柳研究所デジタルヘルスイノベーションセンター センター長・教授)

(SN09-6) 医療関係の資格と院内職務権限付与の利点と課題

藤田 眞幸 (慶應義塾大学医学部 法医学教室 教授)

EL06 : 教育講演

15:20-15:50

テーマ: 医療機器の進化と医療従事者の退化 ～AI・自動化の盲点
: システム停止時にあなたは手動で動かせますか～

座長: 増田 雄一 (信州大学医学部附属病院 医療安全管理室 室長/教授)

演者: 田仲 浩平 (東京工科大学 片柳研究所 デジタルヘルスイノベーションセンター 教授)

PL02 : 総会長講演

16:00-16:30

テーマ: 地方で医療安全をやるということの意味

座長: 手塚 則明 (東北医科薬科大学 医療安全部 教授)

演者: 栗原 慎太郎 (長崎大学病院 医療安全管理部 教授)

閉会式・次期会長挨拶

17:00

(B会場) 2026年9月13日(日)

東京大学医学部教育研究棟13階第7セミナー室

EL07: 教育講演

9:10-9:40

テーマ: 胆膵内視鏡(ERCP関連手技)における医療安全

座長: 郷間 厳(堺市立総合医療センター 呼吸器内科 部長)

演者: 林 香月(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 消化器内科 教授)

SN10: 分科会シンポジウム(看護分科会)

10:00-12:00

テーマ: 地域とともに進める医療安全 一連携の実際から考える看護の役割と課題一

座長: 澁澤 盛子(独立行政法人国立病院機構埼玉病院 看護部 看護部長)

(SN10-1) 地域ネットワークによる医療安全標準化の試み

～統一した相互チェック表の導入と医療安全管理係長の役割～

藤井 由美恵(独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 医療安全管理係長)

(SN10-2) 高度急性期病院における身体拘束最小化に向けた取り組み

～医療安全文化の醸成に向けた活動～

高見沢 愛弓(独立行政法人国立病院機構東京医療センター 看護部長)

(SN10-3) 神経難病患者の在宅療養を支える地域連携と看護ケアの実践

谷仲 圭子(地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立神経病院 看護部長)

(SN10-4) 退院後の医療安全をともにつくる患者・家族教育

一病院から地域へつなぐデジタル活用と看護の役割一

大西 真裕(昭和医科大学大学院保健医療学研究科/保健医療学部看護学科)

(SN10-5) 医療メディエーションが支える患者・家族参加型の医療安全

～地域連携における合意形成と看護職の役割～

木村 由紀(長崎大学病院 医療相談室 副室長・看護師長)

SN11: 分科会シンポジウム (看護分科会)

13:00-15:00

テーマ: 看護学実習における医療安全教育: 教育実践と安全文化の醸成

座長: 井上 都之 (岩手県立大学 看護学部 准教授)

(SN11-1) 看護基礎教育での医療安全教育の課題

—参加型臨地実習を実現するための体制づくり—

長田 恵子 (東京医療保健大学 副学長/立川看護学部長)

(SN11-2) 基礎看護学実習における医療安全学習の転移

—ヒヤリハット分析とTeamSTEPPSをつなぐ教育設計—

井上 都之 (岩手県立大学 看護学部 准教授)

(SN11-3) 成人看護学実習における安全確保と学習支援

迫田 典子 (獨協医科大学 看護学部 教授)

(SN11-4) 患者安全と学生の学びを両立する臨床実習へ

—病院・教育機関の協働によるインシデント予防と学生支援—

大西 真裕 (昭和医科大学大学院保健医療学研究科/保健医療学部看護学科)

(SN11-5) 臨地実習における医療安全の水準をともにつくる—大学と実習施設との協働—

檜山 明子 (札幌市立大学 看護学部 教授)

(SN11-6) 看護基礎教育における実習記録の取扱いと電子化導入の現状

川村 晃右 (京都橘大学 看護学部 准教授)

(SN11-7) 在宅看護学実習における医療安全教育: 教育実践と安全文化の醸成

—訪問看護ステーション実習を事例として—

甲州 優 (獨協医科大学 看護学部 在宅看護学、在宅看護学実習 科目責任者)

EL08: 教育講演

15:20-15:50

テーマ: 看護学実習における医療安全の実装

: 学習者中心のリスクマネジメントと現場支援の接続

座長: 遠藤 純男 (イムス横浜狩場脳神経外科病院 脳神経外科/医療安全管理部門長)

演者: 井上 都之 (岩手県立大学 看護学部 准教授)

SP02: 特別講演

16:00-16:30

テーマ: 医療安全対策の動向

座長: 檜山 明子 (札幌市立大学 看護学部 教授)

演者: 荒木 崇宏 (厚生労働省医政局医療経営改革課医療安全推進・医務指導室)

(C会場) 2026年9月13日(日)

東京大学医学部教育研究棟 13階第8セミナー室

SN12: 分科会シンポジウム(医療安全分科会)

9:10-10:30

テーマ: 介護施設等の安全にどう貢献していくのか

座長: 大原 志歩(社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院 TQM センター
医療安全管理室 副室長・看護師長)

(SN12-1) 共有と共感で安全文化を育てよう

小澤 知博(公益財団法人 横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院 医療安全管理室)

(SN12-2) 何ができるか?～医療安全管理者が特別養護老人ホームに行ってみた～

齋藤 謙治(社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会横浜市東部病院 TQM センター
医療安全管理室 薬剤師)

(SN12-3) 医療安全推進部が担うグループ横断型安全支援体制の現状と展望

新村 美佐香(医療法人五星会 菊名記念病院 医療安全管理室 室長)

SN13: 分科会シンポジウム(多職種連携のための教育分科会)

10:40-12:00

テーマ: 多職種連携のための教育分科会の役割

座長: 世川 修(東京女子医科大学病院 小児外科・医療安全科 臨床教授)

(SN13-1) 地域社会を支える多職種連携教育の構築—卒前から卒後へつなぐ安全文化の創造—

迫田 典子(獨協医科大学 看護学部 教授)

(SN13-2) 多職種連携教育(IPE)の現状と今後の展望: 既存文献のレビューを通じて

中山 晴雄(東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科)

(SN13-3) 当院における医療安全啓発センターでの多職種連携教育

世川 修(東京女子医科大学病院 小児外科・医療安全科 臨床教授)

SS01 : 特別企画

13:00-14:40

テーマ：多職種で行う医薬品の安全な使用のあり方

演者：黒田 誠一郎（東京大学医科学研究所附属病院 薬剤部 薬剤部長）

富田 隆（国際医療福祉大学 薬学部／国際医療福祉大学三田病院 薬剤部 教授）

雨宮 貴洋（帝京平成大学 薬学部 准教授）

大原 志歩（社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院 TQM センター
医療安全管理室 副室長・看護師長）

堀田 まゆみ（東海大学医学部附属八王子病院 医療安全対策課）

SS02 : 特別企画

14:50-15:50

テーマ：多職種で行う医療機器の安全な使用のあり方

演者：渡邊 雅俊（国家公務員共済組合連合会東海病院 診療部臨床工学科技師長／医療安全管理部
医療機器安全管理責任者）

井口 新一（医仁会武田総合病院臨床工学科係長、京都府臨床工学技士会副会長）

高見沢 愛弓（独立行政法人国立病院機構東京医療センター 看護部長）

(D 会場) 2026 年 9 月 13 日 (日)

東京大学医学部教育研究棟 13 階第 5 セミナー室

EL09 : 教育講演

9:10-9:40

テーマ: 注射薬の調製・投与における安全管理再考
—患者とスタッフを細菌・異物・曝露から守るための多角的アプローチ—

座長: 荒井 有美 (北里大学病院 医療安全推進室 副室長・医療安全管理者)

演者: 黒田 誠一郎 (東京大学医科学研究所附属病院 薬剤部 薬剤部長)

SP03 : ハンズオンセミナー

10:00-12:00

テーマ: 抗がん剤曝露防止ハンズオンセミナー —抗がん剤の安全管理とデバイスの提案—

座長: 伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部長)

演者: 調整中

NP03 : 一般演題

13:40-14:20

座長: 緒方 賢司 (千葉西総合病院 副院長)

(NP03-1) 医療機器安全管理体制の構築と高度化に向けた 20 年の歩み

渡邊 雅俊 (国家公務員共済組合連合会東海病院 診療部臨床工学科技師長／医療安全管理
部医療機器安全管理責任者／名古屋市立大学大学院データサイエンス研究科)

(NP03-2) 医療機器安全管理における多職種連携による体制改善の取り組み

藤井 久人 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 臨床工学技術科)

(NP03-3) 公開データを用いた医療機器関与事例の把握とその要因の分析

伊藤 宏将 (名古屋市立大学大学院 データサイエンス研究科)

(NP03-4) Safety-2 を現場にいかにして実装するか!?

～4 年間の取り組みを振り返って見えてきたもの～

藤井 耕 (京都民医連あすかい病院 医療安全管理室)

NP04：一般演題

14:30-15:10

座長：福元 大介（独立行政法人国立病院機構相模原病院 医療安全管理課長）

(NP04-1) MRI 室における吸着事故防止に向けた全職員研修の取り組みと課題

—知識状況調査に基づく教育的介入の効果と限界—

宮本 直武^{1,2,3)}，濱田 修¹⁾，中島 弘満^{1,2)}，菊池 明泰⁴⁾，印藤 智一⁴⁾，谷川原 綾子⁴⁾，
廣部 悠友³⁾，森木 空³⁾

- 1) 士別市立病院 医療安全管理室
- 2) 士別市立病院 診療技術部診療放射線科
- 3) 北海道科学大学 保健医療学研究科
- 4) 北海道科学大学 保健医療学部診療放射線学科

(NP04-2) 入院患者の転倒・転落時における頭部 CT 撮影プロトコルの検討

：検査の正当性と被ばく線量の視点から

宮本 直武^{1,2,3)}，濱田 修¹⁾，中島 弘満^{1,2)}，菊池 明泰⁴⁾，印藤 智一⁴⁾，谷川原 綾子⁴⁾，
廣部 悠友³⁾，森木 空³⁾

- 1) 士別市立病院 医療安全管理室
- 2) 士別市立病院 診療技術部診療放射線科
- 3) 北海道科学大学 保健医療学研究科
- 4) 北海道科学大学 保健医療学部診療放射線学科

(NP04-3) 高齢者がん薬物療法における病院組織的な多職種介入の運用策定と有用性の評価

脇田 恵里（名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 薬剤部）

(NP04-4) 医療 AI における「責任の空白」を防ぐ

：責任分界・契約最小条項・医療者リテラシー教育の統合

大田原 正幸（杏林大学 保健学部救急救命学科）

NP05：一般演題

15:20-16:00

座長：雨宮 貴洋（帝京平成大学 薬学部 准教授）

(NP05-1) ビンカアルカロイド系薬剤髄腔内流入 37 件の分析と、拡大防止・再発防止の検討

～強い安全文化確立をめざして～

喜田 裕也（光生病院 内科）

(NP05-2) 院内迅速対応チーム活動の報告

白濱 奈歩（独立行政法人国立病院機構東京医療センター 医療安全管理係長）

(NP05 続き)

(NP05-3) コロナ禍で中断したグループワークの安全意識への影響 ～みんなでワイワイ KYT～

樋口 義春（イムス横浜狩場脳神経外科病院 医療安全管理室）

(NP05-4) 病院長としての医療安全へのかかわり

柳澤 真司（国保直営総合病院君津中央病院 病院長）

(E 会場) 2026 年 9 月 13 日 (日)

東京大学医学部教育研究棟 13 階リフレッシュコーナー

PP01 : 一般演題 (ポスター)

13:00-13:30

(PP01-1) 薬剤関連インシデントレポートのテキストマイニングによるエラー行動解析
—経験年数 1-6 年目における職種別リスク特性の検討—

轟 咲菜 (東京女子医科大学附属足立医療センター)

(PP01-2) 一般外来における待合中急変の未然防止への示唆
—急変予兆への気づきを促す教育的取り組みから—

小林 恭代 (昭和医科大学病院 HCU)

(PP01-3) テキストマイニングによるプレアボイド報告の薬物療法適正化行動解析

竹越 友紀 (東京女子医科大学附属足立医療センター)

ポスター掲示・企業展示

9:30-17:00

※ポスターは 11:30 までにご掲示ください。撤去は 16:00 です。

学会認定の「臨床医学安全推進者」資格制度について

(2026 年 1 月 14 日付)

(概要) 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の臨床医ならびに歯科医の会員へ認定証を交付する。本制度は 2025 年 12 月より実施する。

(目的) 諸臨床医学分野に共通する安全推進に特化する資格制度によって、各臨床医学分野における安全推進者を養成する。

(対象者) 臨床医学現場経験年数が 5 年以上有する全国の医師若しくは歯科医師で、なにがしかの臨床系医学会の会員、かつ日本医療安全推進学会の会員。

(受講科目) 科目受講の順不同で構わない。

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無
医療安全倫理・モラル研修会	講義	1 日	無
医療事故調査セミナー	講義	連続する 2 日間	無
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	1 日	有
チーム医療安全研修会	講義/実習	1 日	有
医療安全のためのリスク分析・調査	講義/実習	1 日	有
医療安全情報処理 (診断ミスを含む)	講義	1 日	有
医薬品安全・感染症安全対策の基礎研修 (臨床医・歯科医向け)	講義	1 日	無
医療機器安全管理 (臨床医・歯科医向け)	講義	1 日	無

- ・全科目を国際医療リスクマネジメント学会、若しくは日本医療安全推進学会が主催する。

(学会認定「臨床医学安全推進者」資格の取得要件)

- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・所属する臨床系学会の学会名と会員番号も届け出ること。
- ・上記の全科目を 5 年以内に取得すること。
- ・すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請すること。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1 万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定「臨床医学安全推進者」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の 5 年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去 5 年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1 万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度について

(2026 年 1 月 14 日付)

(概要) 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。
本制度は 2022 年 11 月より実施する。

(目的) 医療安全に特化した高度な資格制度によって医療安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

(対象者) 臨床現場経験年数が 10 年以上有する全国の医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの医療有資格者(事務職員は含まない)で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

(受講科目) すべて必須科目。科目履修は医療安全概論から始めるのが望ましい。他の科目は順不同で構わない。ただし、同一科目名では基礎編⇒実践編の順とする。

(科目名)	(実施形式)	(実施日数)	認定試験の有無
医療安全基礎講座 (基本方法)	講義	連続する 3 日間	無
医療安全倫理・モラル研修会	講義	1 日間	無
医療安全教育セミナー (ヒューマンファクターズ編)	講義/実習	連続する 3 日間	
医療安全教育セミナー (実践編)	講義	連続する 3 日間	無
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	1 日間	有
臨床安全コミュニケーター(クライシスコミュニケーション編)	講義/実習	連続する 1 日間	有
チーム医療安全研修会	講義/実習	連続する 1 日間	有
医療事故調査セミナー	講義	連続する 2 日間	無
相談・コーチング・コンサルテーション研修会	講義/実習	1 日間	有
医療安全のためのリスク分析・調査セミナー	講義/実習	連続する 1 日間	有
医療安全情報処理教育セミナー	講義	連続する 1 日間	有
感染症の危機管理教育セミナー	講義	連続する 1 日間	無
災害の医療安全教育セミナー	講義	連続する 1 日間	無

- ・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格を必要としない方は単一の科目を受講し、認定試験のある科目ではその受験ができる。

(学会認定「医療安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度の全科目を 5 年以内に取得すること。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1 万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定「医療安全高度専門家」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の 5 年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去 5 年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1 万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度について

(2026 年 1 月 14 日付)

本資格は医薬品安全管理業務を含みます。

(概要) 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。
本制度は 2022 年 11 月より実施する。

(目的) 医薬品安全に特化した高度な資格制度によって医薬品安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

(対象者) 臨床現場経験年数が 10 年以上有する全国の薬剤師で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

(受講科目)

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無	備考
医療安全基礎講座	講義	連続する 3 日間	無	
医薬品安全管理研修会	講義	連続する 2 日間	無	
医療安全教育セミナー (事故対応編)	講義/実習	連続する 3 日間	無	ヒューマンファクターズ編と同一
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	1 日	有	
臨床安全コミュニケーター(クライシス編)	講義/実習	1 日	有	
医療安全のための相談・コンサルテーション講習会	講義/実習	1 日	有	
リスク情報安全学	講義/実習	1 日	有	
チーム医療研修会	講義/実習	1 日	有	

- ・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。

(学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・臨床現場経験年数が 10 年以上有することを証明する書類を提出すること。
- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度の全科目を 4 年以内に取得すること。
- ・学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1 万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の 5 年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去 5 年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ医薬品安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定には、過去 5 年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ医療安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1 万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度について

(2026 年 1 月 14 日付)

本資格は看護安全管理業務を含みます。

(概要) 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。
本制度は 2018 年 4 月より実施する。

(目的) 看護安全に特化した高度な資格制度によって看護安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

(対象者) 臨床現場経験年数が 5 年以上有する全国の看護師で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

(受講科目) すべて必須科目。科目履修は順不同で構わない。

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無	備考
医療安全基礎講座	講義	連続する 3 日間	無	
看護安全推進研修会	講義	1 日	無	
医療安全倫理・モラル研修会	講義	1 日	無	
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	1 日間	有	
臨床安全コミュニケーター (クライシスコミュニケーション編)	講義/実習	1 日間	有	
医療安全のための相談・コンサルテーション講習会	講義/実習	1 日間	有	
チーム医療安全研修会	講義/実習	1 日間	有	

- ・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格を必要としない方は単一の科目を受講し、認定試験のある科目ではその受験ができる。

(学会認定の「看護安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・臨床現場経験年数が 5 年以上有することを証明する医療機関発行の文書を提出すること。
- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・すべての科目でそれぞれの認定試験を受験し、合格していること。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度の全科目を 4 年以内に取得していること。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1 万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定の「看護安全高度専門家」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の 4 年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去 4 年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ看護安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定には、過去 4 年間日本医療安全推進学会の会員である必要がある。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1 万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

各資格の申請方法

A) 申請に必要な資料書類(原本の場合はその写し)を用意する。

B) 申請費を下記口座へ振り込む。

銀行支店名: みずほ銀行 本郷支店 (075)
ニホンイリョウアンゼンスイシニングカキ
口座名義: 日本医療安全推進学会
番号: 普通 4203412

C) A)の資料と B)の振込控えを以下へ郵送する。

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
東京科学大学大学院 医療安全管理学分野内
日本医療安全推進学会

以上

医療安全推進

日本医療安全推進学会機関誌

(印字版) ISSN 2758-4402

<https://mspo.org/jsmsp/journal/index.html>

発行: 日本医療安全推進学会

「医療安全推進」編集事務局

日本医療安全推進学会本部内

(電子メール) jsmspjournal@mspo.org

機関誌「医療安全推進」刊行案内

一般社団法人医療安全推進機構(MSP0)は医療安全推進に関する諸課題の解決のために「日本医療安全推進学会」を設立しました。その学会機関誌として「医療安全推進」を刊行し、学会員の研究論文の蓄積を以て医療に貢献します。様々な関連分野の専門家から構成される編集委員を構成し、学会内部に蓄積します。

編集の方針

- 1) 投稿論文は査読審査の対象となります。
- 2) 発行は電子版のみにより行います。
- 3) 日本語論文のみを掲載します。英語論文の場合は国際医療リスクマネジメント学会機関誌「Journal of Medical Safety」への投稿をお願いいたします。
- 4) 氏名、所属、住所および英文の抄録を付けてください。

投稿規定

「医療安全推進」は日本医療安全推進学会における研究報告等を受け付ける。

その投稿は以下の規定による。

1. 投稿原稿は総説、原著論文、短報、その他とし、区分はつぎのものとする。
 - 1) 総説：医療安全推進に関する諸問題を客観的な資料・考察に基づいて広い視点から論じたもの。
 - 2) 原著論文：独創性のある理論的または実証的な研究で、完成度の高いもの。
 - 3) 短報：独創性、緊急性のある萌芽的研究で、発展性の期待できる研究を手短にまとめたもの。短報は電子版「医療安全推進」誌にのみ掲載されます。
 - 4) その他：症例報告（医療事故の治療経験など）・各医療機関でのベストプラクティス・トピックス・意見など、編集委員会で必要性を認めたもの。
2. 「医療安全推進」の原稿は邦文ないし英文とする。
3. 投稿論文は未発表・未掲載のものとする。他雑誌に掲載されたものを重複して投稿してはならない。
4. ヒトおよび動物を対象にした研究論文は、1975 年のヘルシンキ宣言（1989 年改訂）の方針に従い、必要な手続きを踏まなければならない。ヘルシンキ宣言（1964 年, 1975 年, 1983 年, 2003 年改訂）、臨床研究に関する倫理指針（厚生労働省, 平成 20 年 7 月 31 日改正）、疫学研究に関する倫理指針（厚生労働省, 文部科学省, 平成 20 年 12 月改訂）、医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドラインなどの倫理的指針に従い、必要なものについては施設の倫理委員会、Institutional review board (IRB) の承認を得、その由を論文に記載する。さらに、「個人情報の保護に関する法律」（平成 17 年 4 月）などその時代に遵守すべき法令・省令を遵守する。症例報告などのプライバシー保護に関しては外科系学会協議会による「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」に従うこと。動物を用いた研究では、各施設の動物委員会などが定めた基準に従い慈愛深く取り扱い、このことを記載しなくてはならない。臨床試験は、臨床試験登録公開制度システム（UMIN-CTR など）に登録する。ランダム化比較試験（randomized controlled trial; RCT）では、

CONSORT 声明に従う。また、科学研究として公平性・信頼性を確保するため、企業等との利益相反について明確にする必要がある。論文採用決定後は、「学会誌 (Palliative Care Research) 論文発表者の報告事項」に定める事項について「利益相反事項届出書 (学会誌発表者用)」の提出をしなければならない。

1. 投稿原稿の査読、採否および掲載順序などは編集委員会において決定し、編集委員長の名で著者に連絡する。
2. 原則として、投稿原稿は別に定める「執筆要項」に従った原稿によるものとし、和文原稿では英文の抄録ならびに英・和それぞれ5語前後のキーワードを原稿につける。
3. 投稿原稿は e-mail にて「医療安全推進」編集事務局に送付する。その際には、他雑誌に未発表・未投稿である旨を宣言した書面を沿えて、下記宛に送る。また、書面に総説、原著、短報、その他のいずれの категорияとして投稿するのかを明記すること。別途印刷物を編集事務局に 2 部送付する。
4. 掲載された原稿の著作権は日本医療安全推進学会に属する。
但し、執筆者が使用する場合本会の許諾を必要としない。

投稿先

「医療安全推進」編集事務局

日本医療安全推進学会本部内

(〒) 113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 東京科学大学大学院 医療安全管理学分野

(電子メール) jmspjjournal@mspo.org

原稿の執筆要領

1. 原稿はワープロソフトを用い、横書き、新かな使い、常用漢字の楷書で記載する。句読点および括弧は一字とする。投稿原稿の枚数は図表などを含めて刷り上がり 8 頁以内（1 頁約 2000 字）とする。頁数を超過した場合には、超過分の費用を徴収する。ワープロソフトは Word 等の Windows 系のソフト、あるいは PDF ファイルで送付すること。
2. 外国語の人名、地名、学名はタイプまたはブロック体で記載する。ただし、カタカナでもよい。
3. 和文抄録（400 字以内）及び英文抄録（400 語以内）を作成する。また、氏名、所属、連絡先を英文でも記載する。原著論文の場合には目的、対象と方法、結果、考察および結論として見出しをつけて記載すること。
4. 原稿の 1 頁目には、表題、著者名、所属機関名、別刷請求先、連絡先住所、表および図の数などを記載すること。
5. 図表は必要最小限にとどめること。図表は不都合なときには、使用ソフトなどについて編集委員会がその都度指示する。図説明文は別頁とする。
6. 本雑誌の単位符号は原則として SI 単位を用いる。（JISZ8203 参照）
例：1）長さ、面積、体積 km, m, cm, mm, μ m, nm （特殊な分野では=Å）
7. 引用文献は引用順とし、末尾文献表の番号を両括弧数字で記す。
雑誌の場合、全著者名.表題.雑誌名.年号：巻数：頁－頁、の順に記す。
1）田島静,千々和勝己. 初夏に某小学校で発生した小型球形ウイルス（SRSV）による集団食中毒事例. 日本公衆衛生雑誌 2003：50：225-233.
2）Adamson J, Hunt K, Ebrahim S. Socioeconomic position, occupational exposures, and gender: the relation with locomotor disability in early old age. J Epidemiol Community Health 2003;57: 453-455.
単行本の場合、編・著者名. 書籍名. 所在地：発行所, 発行年：頁. の順に記す。
引用頁は全般的な引用の場合には省略することができる。
3）川上剛,藤本瞭一,矢野友三郎. ISO 労働安全・衛生マネジメント規格. 東京：日刊工業新聞社,1998.
4）Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002.
5）川村治子. リスクマネジメント. 高野健人他編. 社会医学事典. 東京：朝倉書店. 2002:98-99.
6）Detels R, Breslow. Current scope and concerns in public health. In: Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002: 3-20.
8. 本文の最後に、別紙「利益に関する開示文書」に従って利益相反に関する開示事項を記載する。

「医療安全推進」編集委員会

(2025 年 1 月 8 日付)

編集長

四柳 宏 (国立健康危機管理研究機構)

編集委員 (五十音順)

井上 都之 (岩手県立大学 看護学部 准教授)

工藤 篤 (東京科学大学病院 医療安全管理部)

肥田 圭介 (岩手医科大学附属病院医療安全管理部)

田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科教授)

富田 隆 (国際医療福祉大学三田病院薬剤部)

中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部)

(別紙) 利益に関する開示文書

医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」における利益相反の開示すべき項目

1. 産学連携活動に係る受け入れ額が、1 企業あたり年間 200 万円以上（所属機関から の間接経費が差し引かれる前の金額）の場合
2. コンサルタント、指導、講演、給与としての個人収益が、1 企業あたり年間 100 万円以上（税金や源泉徴収額を引く前の金額）の場合
3. 産学連携活動に係る個人収益（公開・未公開を問わず、当該企業の株式等の出資・取得・保有及び売却・譲渡、ストックオプションの権利譲受、もしくは、役員報酬、特許権使用料等）が 1 企業あたり年間 100 万円以上あった場合（但し、投資信託、もしくは、当該個人によって管理・制御できない多角的なファンドにおいて資金運用される場合を除く）
4. 上記 1～3 のいずれかに該当する企業に一親等の親族が現在勤務している場合

該当しない場合には「医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」の定める利益相反に関する開示事項はありません。」と論文の末尾に記入する。

該当する場合には「医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」の定める利益相反に関する開示事項に則り開示します、（企業名）から（〇〇円）。」と論文の末尾に記入する。

なお、個人収益の場合は、前年の 1 月 1 日から 12 月 31 日までとする。ただし、寄付金や企業からの受託等、産学連携活動に係る研究の場合は、前年 4 月 1 日から本年 3 月 31 日までの期間でも可とする。も可とする。

以上






患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。

病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。

私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合いたいと思います。

治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。

病気を見つめるだけではなく、想いを見つめて、薬は生まれる。

「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。


NIHON KOHDEN

医療安全の向上を目指すアラームマネジメント

アラーム環境改善に向けてPDCAのお手伝い

1 簡易スクリーニング

生体情報モニタのアラーム状況を簡易的にスクリーニング




オンサイトアラーム分析ソフトウェア QP-841N セントラルモニタのイベント一覧画面

2 分析

アラームを分析し 適切なアラーム管理をサポート




アラームレポート オンサイトアラーム分析ソフトウェア QP-841N



4 対策実施

アンテナ工事による電波環境改善や送信機の一時的退室機能も活用可能




送信機 ZS-730P

3 具体策立案

MESA*による安全管理講習会でアラーム環境改善に必要な具体策をご提案



* MESA :
Medical Equipment Safety Adviser

販売名: 送信機 ZS-730P

医療機器認証番号 307ADBZX00087000

管理医療機器 / 特定保守管理医療機器

76A-0023 広告管理番号: NKC0B010-260049

〈製造販売〉

日本光電

東京都新宿区西落合1-31-4
〒161-8560 ☎03(5996)8000

*カタログをご希望の方は当社までご請求ください。

<https://www.nihonkohden.co.jp/>

日本医療安全推進学会のホームページ

<https://mspo.org/jsmsp/>

第3回日本医療安全推進学会学術総会

日本医療安全推進学会

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

東京科学大学大学院 医療安全管理学分野

Email: jsmspoffice@mspo.org